

## 2 「震生湖」とは

### 震生湖

位置 秦野市今泉・平沢  
中井町境別所

標高 約 150m

面積 13,000 m<sup>2</sup>

水深 最大 10m (平均 4 m)



震生湖周辺（国土地理院地図より作成）

### 概要

震生湖は、大正 12 年（1923）9 月 1 日の関東大地震により、中村川支流である藤沢川最上流部の市木沢南斜面が約 250 m にわたって地すべりを起こし、その土砂が沢を閉塞して誕生した堰止湖です。

関東大地震は、大正 12（1923）年 9 月 1 日午前 11 時 58 分に相模湾北西部を震源とする推定マグニチュード 7.9 の地震であり、神奈川県周辺では震度 6 を観測しています。死者・行方不明者は 10 万 5 千人を超え、水道等のライフラインにも甚大な被害が発生しました。秦野市内の被害状況は、『神奈川県震災誌』によると全壊 1,490 軒、半壊 2,640 軒で死者 171 人でした。秦野町（当時）では地震直後に乳牛から出火し、西南の風により中宿の全部、上宿、片町、大道通りの一部が焼失し、232 戸が全焼しました。また、前夜からの強雨により、秦野市域周辺の山沿いでは、土砂崩れが複数発生しました。

震生湖の誕生も土砂崩れの内の 1 つですが、今日までいく度かの開発の波を受けているものの、昭和 5 年（1930）の寺田寅彦らの測量調査と比較すると、当時の地形を良くとどめています。そして、堰止湖を構成する「湖面」「崩落地」「堰止地」が震災から 100 年近くを経過しても確認でき、地すべり発生当時の凄まじさを今日に至るまで示しています。

そのため、震生湖は、関東大地震によって誕生した「現存する堰止湖」として、地震による地形変化の規模の大きさを今日に伝える意義深い例であり、自然災害と人々の関わりを考える上で貴重な資料であることから、令和 3 年（2021）3 月 26 日に国登録記念物（動物植物地質鉱物関係）に登録されました。